## かわまちづくり支援制度について

## 【かわまちづくり支援制度とは】

推進主体(自治体及び民間事業者)が河川管理者と共同で作成した「かわまちづくり計画」を「かわまちづくり」支援制度に登録することにより、河川管理者が「かわまちづくり計画」に基づき必要なソフト施策、ハード施策の支援を行います。(令和7年8月時点:303ヶ所登録)

## 河川管理者が行うソフト施策による支援

- ●「かわまちづくり」の実現に向けて必要となる調査・検討
- ●全国の有効な事例等の情報提供
- ●都市・地域再生等利用区域の指定等を支援
  - ⇒平成23年の河川空間のオープン化(河川敷地占用許可準則を一部 改正)に伴い、河川管理者により都市・地域再生等利用区域の指定 を受けることで、民間事業者が同区域内で営業活動を行うことが可 能になっている。

## 都市・地域再生等利用区域の指定の摘要事例



遊歩道の民間活用 (道頓堀川/大阪市)

オープンカフェの設置 (京橋川/広島市)

## 先進的な取組の情報提供



民間事業者の参加 (信濃川/新潟市)



賑わい拠点の整備 (木曽川/美濃加茂市)

## 河川管理者が行うハード施策による支援

- ●河川管理施設の整備(管理用通路、親水護岸、高水敷整正 等)
- ●市町村等は、河川を利活用するための施設整備を実施
- ⇒河川区域内に多目的広場を整備する場合、河川管理者は高水敷整正、管理用通路等を整備し、市町村等は芝張り、トイレ、休憩施設等の整備を行う。





河川管理用通路の利用 (最上川/長井市)



親水護岸の利用 (新町川/徳島市)

## 百目木地区かわまちづくりについて(1/3)

## かわまちづくり計画策定の推進体制

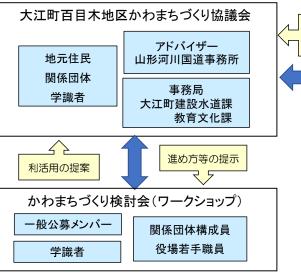
- ●「大江町百目木地区かわまちづくり計画」の策定に向けて、最上川百目木地 区の河川空間の利活用や維持管理等に関する協議を行うため、地元住民、 関連団体、学識者等から構成される「百目木地区かわまちづくり協議会」を令 和6年1月に設立しました。
- さらに、関係団体構成員、役場若手職員、および一般公募に応募した住民等 で構成される「百目木地区かわまちづくり検討会」を令和6年2月に設立し、 ワークショップ形式によるかわまちづくりのハード・ソフト施策等の検討を行っ ています。
- ◆検討においては、当該地区が国選定重要文化的景観のエリア内であること から、「大江町文化的景観保存整備検討委員会」の意見も踏まえながら取り 組んでいます。

指導 助言

> 大江町文化的景 観保存整備検討

> > 委員会

土木部会



## ▲ 百目木地区かわまちづくり推進体制



▲第1回協議会の様子



▲第2回検討会グループワークの様子 (法政大学と東北芸術工科大学の 学生さんも参加)

## これまでの取組み

- 令和6年1月に「第1回 百目木地区かわまちづくり協議会」を開催後、これまで 協議会4回、検討会8回実施し、検討を進めています。
- ●「大江町文化的景観保存整備検討委員会」に年1~2回、かわまちづくり検討経 緯を報告しています。
- その他、大江町担当部課、国土交通省、学識者等から構成される「コアメン バー会議」を開催し、検討会・協議会に諮る検討内容の協議を行っています。

### 令年7年度の取組み状況

| R7.5.16 | 第3回かわまちづくり協議会     | 計画の進捗状況、スケジュール案     |
|---------|-------------------|---------------------|
| R7.5.30 | 大江町文化的景観保存整備検討委員会 | 百目木地区治水対策関係の現状変更    |
| R7.6.19 | 第7回かわまちづくり検討会     | グループワーク(方針検討)       |
| R7.7.17 | 第8回かわまちづくり検討会     | グループワーク(設計案)        |
| R7.8.1  | かわまちづくり住民説明会      | 計画の進捗状況             |
| R7.8.6  | 大江町文化的景観保存整備検討委員会 | 百目木地区かわまちづくり関係の現状変更 |
| R7.8.6  | 第4回かわまちづくり協議会     | 計画の進捗状況、設計方針(案)イメージ |
| R7.9.11 | 第9回かわまちづくり検討会     | グループワーク(活動主体と体制)    |

## かわまちづくりのコンセプト

### 大江町を知るみなさんが語る、使う最上川

### 最上川

- 川の姿 豊かできれいな川の流れ
- 時に見せる荒ぶる洪水 ・豊勝地「柏澱」・「百日木の瀬」

### 川の自然

・川沿いの自然豊かな樹林帯 ・水辺にすむ多様な生物

## 文化・歴史

城下町 中世の左沢橋山城跡 ・近世の小漆川城跡と町場 (御免町・内町・横町・原町)

• 米沢舟屋敷跡 品上川中间

祭事·風物 ・灯篭流しと花火大会

## 暮らし

● 「眺める」先の最上川 ~散りばめられた最上川のビューボイント~

桶山公園からの眺め 左沢線の車窓からの眺め 旧最上橋、左沢橋からの眺め ● 季節を「味わう」の最上川 ~川沿いで食卓を囲む文化~

● 「触れて」楽しむ最上川

かつての最上川との思い出を懐かしみ、花火大会の歴史を伝え

継ぐとともに、水辺での新たな触れ合い・楽しみを見出す

水切り バス釣り 今も続くアクティビティ

(春) 花見やピクニック

アユ釣り 川遊び 川泳ぎ やなで遊ぶ

(夏) 軒先のBBQ (通年) 河原で芋煮会

重要な構成要素

複合的な景観

重層的な景観

川〜低地〜段丘と連続した地形(→川港、河岸集落) 峡谷から盆地へ、河岸段丘(→上流と中流以下で船を交換する中継点) 築跡、茶屋跡、百目木茶屋頃にうたわれた情景(→最上川と人のつきあいかた) 百目木甚句(→左沢の文化は広域的な流通・往来に根差したもの) ●原町通り関連の道路・旧最上橋

国選定 重要文化的景観の価値と構成要素

政治・行政上の拠点(城下町)×最上川舟運の河岸集落=独特の生活文化を有する町場

ら現代に至る左沢の歴史的展開が現在の土地利用の在り方に表れている 「最上川沿岸に発達した町場の一つの典型として、 この地域における生活・生業を理解するうえで欠くことが出来ない景観地

及び 左沢町場の景観

川沿いの低地から段丘上の町場へ、道路勾配(→最上川から入る左沢の往来) 平面的な法線と通行できる様子(→陸上交通の要衝、結節点) 桜町渡船場跡や旧最上橋(→左沢を取り巻く交通の変遷)

### ●城下と河岸の街並み(原町通り沿い)

●最 | III 百目木地区の淵の地形(→最上川舟運の船着き場)

最上川の流通・往来

川辺に盛土し擁壁を設けた住宅敷地、川と行き来する階段や路地 (→最上川とのつきあいかた(日常・洪水)) 低地に住宅や畑・高台に舟屋敷跡、川から段丘上へ階段状の住宅敷地

(→川沿いの地形に即した土地利用、最上川から段斤へ連続した空間)

最上川舟運にまつわる自然景観や左沢の街並み、および河岸で の人々の暮らしの価値を再認識し、保全・継承を図る

# 百目木地区かわまちづくりについて(2/3)

## かわまちづくりエリアの使い方

大江町では「花火大会」「日常」「文化的景観」の3つの視点で、1年を通したかわまちづくりの各エリアの使い方を設定しました。 これらの3つの視点で捉えた使い方を融合させたかわまちづくりを目指します。





# ■文化的景観(365/365日)



## 百目木地区かわまちづくりでやりたいこと(使い方)

|            | 花火大会<br>【1/365日】<br><sub>(資料1)</sub>                                                           | 日常<br>【364/365日】<br><sub>(資料2)</sub>                                                              | 文化的景観<br>【365/365日】<br><sub>(資料3)</sub>                                                              |
|------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 使い方のコンセプト  | ○川辺への集客<br>⇒川辺での花火観覧<br>⇒灯ろう流しの観覧                                                              | ○暮らしと文化的景観の融合<br>⇒暮らしの中の楽しむ場<br>⇒来訪者の楽しむ場                                                         | ○重要文化的景観の継承<br>⇒景観と暮らしの継承<br>⇒視点場 (3箇所) から<br>の眺望                                                    |
| 水辺への誘いエリア  | 自由観覧席 (無料)     ・音響設備     ・町道、フットパスへのアク     セス     ・灯ろう流し体験スポット                                 | ・小規模イベント     ・駐車場(おもいやリP)     ・芋煮広場(花見、芋煮)、水道設備     ・フットバスと連動した散策     ・軽スポーツ     ・残した桜は大事にする(桜並木) | 土地の細やかな表情が損な<br>われない<br>・画一的で人工的な構造や単<br>調な造成は避ける ・ 既存路地の動線は継承する                                     |
| 最上川文化拠点エリア | · 露店出店<br>· 音響、電気、上下水道設備                                                                       | ・小規模イベント     ・来訪者へのガイド案内拠点     ・ガイダンス機能対応施設     ・トイレ等便益施設     ・電気、水道設備     ・高台を活かした展望空間           | ・地形と既存擁壁の保存<br>高台を生かした文化的景観、<br>舟運の歴史が伝わる拠点<br>各エリアや史跡左沢楯山城<br>跡の情報発信<br>・文化的景観の可視化                  |
| 川端くつろぎエリア  | - 有料観覧席<br>- 大会本部 (テント張り)<br>- 川辺を招待者席 (桟敷席)<br>- 音響、電気、水道設備<br>- 川端線沿いに露店出店<br>- 山際に桜を植栽 (日陰) | ・小規模イベント     ・山際に桜並木     ・町道沿いを駐車場     ・フットパスと連動した散策     ・家族や子供が遊べる空間                             | ・最上川舟運、水害と共に生きてきた暮らした伝える<br>・町道川端線の宅盤を導重<br>・大規模な造成を避け、現地<br>盤のスケール感を継承                              |
| くらし伝承エリア   | <ul><li>・自由観覧席 (無料)</li><li>・音響設備</li><li>・フットバスへのアクセス</li></ul>                               | ・フットバスと連動した散策<br>・歴史、文化、防災学習の場                                                                    | <ul> <li>・川と密接した暮らしを表すす宅線や擁壁、川への階段などを専         ・水辺の風情を感じさせるような空間構成</li> <li>・日本一公園からの眺望配慮</li> </ul> |

※本資料は百目木地区における使われ方が大きく3パターン(「花火大会の時」「花火大会以外の日常」「文化財の価値を伝えること」)あることを示したものであり、どれかを選ぶのではなく、これらを融合させた整備を検討するものです。

# 百目木地区かわまちづくりについて(3/3)

## 設計方針(案)のイメージ

## ※下記図面は令和7年8月1日時点の暫定案です。





※本図面は、現在検討中の暫定案を示したものです。



